



## 第376回市民の劇場「第42回ぎふアジア映画祭」

### — 奇跡の映画祭 —

市民スタッフ 大江 繁美

2020年の「ぎふアジア映画祭」が開催できたことは本当に奇跡のようでした。3月、上映作品の選定作業の真っ只中に自粛要請が出て、映画祭を開催できるかも定かではなく、皆で集まって会議をすることすら出来ない状況の中で、本数を減らし企画も見直し、6本のアジア映画を選定できたのはまさに奇跡。でもその6本すべてが胸を打つ素晴らしい作品になったのは、こんなときこそ観てほしい映画を、日頃から様々な作品を観ているスタッフ皆で選んだ賜物。そしてこんなときだからこそ映画を観たいと思って足を運んでくださったお客様たちのお陰です。娯楽や文化はやっぱり豊かに生きていくうえで大事なことなんだと噛みしめられたこともまたよい経験になりました。様々な行事が各地で中止となる昨今、途切れることなくこの映画祭が継続できたこと、心から嬉しく思います。この奇跡と努力の結果が、さらに新たな奇跡を呼び未来へと続くことを願わずにはられません。最後に、このコロナ禍、感染対策を徹底してくださった会館の方々と、それにご協力いただいた多くのお客様に感謝いたします。



お客様には検温やマスク着用などご協力いただきました。

## 映画「台湾、街かどの人形劇」特別企画 真桑人形浄瑠璃(まくわにぎょうじょうり) 紹介



「真桑人形浄瑠璃保存会」の皆様は美しい人形を使って、ご紹介いただきました。

「台湾、街かどの人形劇」の上映後、ゲストにお招きしました「真桑人形浄瑠璃保存会」の福田さんのお話は、知らないことばかりでわくわくする感動の連続でした。昨年の3月の真桑人形浄瑠璃上演はコロナの影響で中止となり、私は初めて真桑文楽を観に出掛けようと思っていた矢先だったので残念な思いでしたが、今回の企画で人形を間近で見ることができ、その構造や細かな表情まで観察ができて、驚き、感心…とてもいい機会に恵まれました。古い頭(かしら)の存在や演目の歴史などもわかりました。こんな素晴らしい伝統芸能が“この岐阜の片隅に”脈々と受け継がれていることにも、映画と同様に心を動かされました。次回はぜひ、生き生きと動いている人形たちに会いたい！と、心底思うばかりです。

真桑人形浄瑠璃(まくわにぎょうじょうり)・・・岐阜県本巣市上真桑に伝わる重要無形民俗文化財の人形浄瑠璃。通称「真桑文楽」と呼ぶ上真桑の本郷地区に古くから伝わる郷土芸能は、300年の歴史を誇っています。

市民スタッフ 大江 美穂

## 「ぎふアジア映画祭」 感想 37セカンズを観て 市民スタッフ 窪田 百代

障がい者の性を扱った日本の映画を観られて感激！！やっとなりのスタートラインに立てたかと思いました。ヘレンケラーも駆け落ちしようとして別れさせられたとか・・・あれから何十年過ぎたのか。もう少し進歩してない気がしていたので。

### お客様のアンケートより・・・

#### 「パドマーワト」(インド)

・ダンスあり歌あり、インド映画は最高です。 ・とにかくゴージャス、女性の衣装にびっくり。 ・インドの歴史神話を調べたくなりました。

#### 「37セカンズ」(日本)

・37セカンズの登場人物の在る姿に自分の在り方を考えさせられました。 ・全編通じて涙を流しながら見入ってしまいました。感動作です。 ・光の使い方が印象的でした。それぞれの人生が照射されているかのような感覚を味わいました。 ・コロナ禍の中、開催いただき感謝です。ありがとうございました。晩秋の楽しみの一つです。毎年刺激と感動を受けてます。映画はいいですね。

#### 「滄落の人」(香港)

・コロナコロナの毎日に、ほんわか癒されて心が暖くなりました。

#### 「存在のない子供たち」(レバノン)

・ものすごい現実が世の中にはいっぱいあるのだと教えていただきありがとうございます。大切に生きようと思った。 ・国籍問題は、遠い話とっていますが、現実にあると思う。世界は広い。いろんな視点を持つことが必要だと思う。

#### 「台湾、街かどの人形劇」(台湾)

・台湾に関心があったのでしっかり見るのが嬉しく。また、真桑文楽も貴重なお話でわかりやすい説明で、よい体験でした。 ・知らない世界なのに、親しい世界に感じられました。 ・台湾の伝統芸能を通じて、台湾の社会を垣間見れた気がします。

#### 「オルジャスの白い馬」(カザフスタン)

・言葉の少ない映画故、心に染みる体に染みる映画でした。 ・カザフスタンの景色・広大な自然がいい。 ・アジア映画祭は他国の日常を知ることが出来る良い。 ・なんとも新鮮な感じを受けた。世界は広い！



## 第378回市民の劇場市民スタッフ企画vol.18 『ぎふ文化センター寄席』

### 落語『昔昔亭A太郎』・浪曲『玉川奈々福』&短編アニメーション『頭山』

市民スタッフ…横山 優子



市民スタッフ  
ぎふ文化センター寄席  
一、「紺屋高尾」 昔昔亭A太郎  
一、「シンデレラ」 玉川 奈々福

「ぎふ文化センター寄席」が、2020年12月12日に行われました。コロナの渦の中にもかかわらず多くのお客様に会場いただき賑やかに開催されました。というよりも奇跡的に開催することが出来たと言うべきかもしれません。今回3回目のご出演となった岐阜市出身の昔昔亭A太郎さんは昨年5月に真打昇進を果たされました。今回はめったに見ることがない吊し幕(後ろ幕と言われています)を、披露していただき味わいある落語でたっぷり楽しませていただきました。そして浪曲師玉川奈々福さんと、曲師沢村豊子さんにもご出演いただき話題の「シンデレラ」で会場を盛り上げていただきました。ロビーでの真打昇進のお祝いコーナーでは「真打までの道のり」と題し、貴重な関連物の展示を行い、ご来場のお客様に喜ばれました。同時に行った紙切りの展示コーナーも好評でした。コロナ渦の中の厳しい社会状況下だ



玉川奈々福さん、沢村豊子師匠、昔昔亭A太郎さんと



紙切りコーナーも好評でした！！



#### 昔昔亭A太郎さん情報

イタリア系の血筋を引き、名前に英字がついた初の真打落語家さん。大学卒業後にサラリーマン生活を経て落語の世界に飛び込み芸を磨きます。二つ目時代には「落語芸術協会の二つ目仲間1人」と「成金」ユニットを組み、切磋琢磨し友情を深めながら精力的に活動し関東で人気を博しました。そして2020年5月に真打に昇進されました。「おめでとうございます」。

## 市民スタッフ (G-free) に参加して 市民スタッフ…小島 淑子

一年余り前、「ぎふアジア映画祭」の催しを偶然知りました。しかもその映画祭が岐阜市民会館、岐阜市文化センターの方々と、市民ボランティアが企画していることを知って、映画を観終わってすぐに、ぜひ参加したいとG-freeに加入しました。映画祭の企画会議の最初は、映画の選定からでした。そして、映画祭を賞鑑(しょうがん)するという、初めての体験でもありました。映画祭公演の時は、鑑賞されたお客様が、良かったねと感謝を述べあっている様子に、喜びを感じました。また、今年はコロナ禍の中開催を心配していた、「ぎふ文化センター寄席」も、昔昔亭A太郎さんの真打昇進までの軌跡の紹介や、市民スタッフの手作り感溢れる展示等々、お客様に楽しんでいただけたのではと、自画自賛しています。「馬は乗ってみよ」の精神で、ぜひ市民スタッフの活動に参加してほしいと思います。大勢の方の参加を待っています。

## ぎふ文化センター寄席 プレ企画



岐阜大学落語研究会にご出演いただきました！！

